

# れんけい

第43号

令和4年7月  
発行


地方独立行政法人  
岐阜県総合医療センター  
Gifu Prefectural General Medical Center  
地域医療連携部



## 巻頭特集

桑原尚志院長「就任のご挨拶」

新任部長の紹介

 トピックス  
Topics 超音波検査部設立!!

看護部からのお知らせ

選定療養費の改定

## 院長就任のご挨拶

### ～これからは地域の医療機関との連携が鍵～



地方独立行政法人 岐阜県総合医療センター

理事長兼病院長 くわ はら たか し  
**桑原 尚志**

の思いを込めて作成した誌面となっています。どうぞ最後のページまでご一読いただければ幸いです。

さて次頁に、当センターが重点医療として取り組んでいる5つのセンター機能と地域の医療機関の皆さんとの関係を簡単に紹介させていただきます。

当センターの地域医療連携広報誌「れんけい」をご覧いただきありがとうございます。2022年4月1日付けをもちまして理事長兼病院長に就任した桑原尚志です。

コロナ禍で医療機関を取り巻く社会は大きく変化し、国や自治体からの求めへの対応や診療報酬改定への対応などで日常診療は大きく変わったことと存じます。地域にお住いの方の生活自体が新しいスタイルに変化していくこの激しい変化の中で、私たち医療人はどのように荒波を乗り切っていけば良いのでしょうか。私たち岐阜県総合医療センターとして、どの様に行動すべきかの鍵は、地域の医療機関の皆さんとの連携にあると考えています。本誌「れんけい」は、2001年に「すこやか」の名で初号が発行されましたが、2015年6月号から現在の「れんけい」に改名されました。地域医療連携を大切にしたいとの思いを込めた改名でしたが、今あらためて「れんけい」へ改名した思いをしっかりと引き継ぐとともに、これまで以上に地域医療連携を大切にしたいと考えております。本誌は、地域医療連携部が中心となって職員の地域医療連携へ

## 救命救急センター

断らない救急医療のスローガンのもと24時間体制で年間2万人を超える救急患者さんと5,000台以上の救急車を受け入れています。有志の開業医さんにも診療にご協力いただいています。この場をお借りしてお礼を申し上げます。救急車と同様に、地域の医療機関からの時間外紹介受診についても24時間対応しておりますので、お気軽にご連絡いただければ幸いです。また、毎週金曜日朝7時30分から、地域の開業医さんを交えての研修医救急レクチャーを開催しています。残念ながら現在はコロナ禍にて外部の先生の出席を見合わせておりますが、遠からず再開を予定しております。ご興味のある方はご参加をお待ちしています。



## 小児医療センター

PICU(6床)は岐阜県の小児三次救急を担っており県内の重症患者を受け入れています。前述の救命救急センターでは小児科スタッフが24時間体制で小児二次救急を担っております。小児についても地域の医療機関からの時間外紹介受診を24時間受け入れておりますので、お気軽にご連絡いただければ幸いです。また、「小児急病センター」は、有志の小児科開業医さんの協力を得て24時間小児一次救急の機能を同時に果たしており、紹介なしのwalk inにも対応できています。協力医の方々に感謝申し上げます。

## 周産期医療センター

岐阜県から総合周産期医療センターに指定されています。胎児診断治療体制を有しており、24時間体制で分娩に対応しています。新生児センターでは新生児搬送車「すこやか号」を運用し県内全域から搬送依頼を受けており、1,000グラム未満の超低出生体重児も受け入れています。当然常時受け入れ態勢をとっていますので、いつでもご連絡ください。

## 心臓血管センター

新生児から高齢者まですべての年齢の開心術を行っています。また早期(=2013年)に導入したハイブリッド手術室は、設置後外科内科共同のチームで大動脈ステントグラフト内挿術や大動脈弁置換術(TAVI)を行っており経験豊富です。また、高度なカテーテル治療にも積極的に取り組み、虚血性心疾患だけでなく、僧帽弁形成術(マイトラクリップ)や心筋焼灼術(アブレーション)などの先端医療も経験豊富です。循環器疾患は時間との勝負であることを意識した体制をとっていますので、時間外であっても是非遠慮なくご連絡いただければ幸いです。



## がん医療センター

手術支援ロボット“ダ・ヴィンチ”を早期(=2013年)に導入し、前立腺がんをはじめ多岐にわたるがん手術で多くの実績を有しています。消化器内科は内視鏡での検査治療の経験が豊富な医師が多く在籍しており、内視鏡でのがん治療実績も豊富です。また22床の外来化学療法室を設置し、快適な環境で治療が受けられるように配慮しています。手術が予定となった患者さんには総合サポートセンター入院支援室が介入し入院前の準備を行うことで、がん患者さんにとって大きな安心につながっています。満足度の高い診療を提供することで、地域の医療機関の皆さんのご要望に応えたいと考えていますので、是非ご利用いただければ幸いです。一方、退院後についても医療機関の皆さんとの連携が大切と考えていますので、どうかよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

## ペインクリニック科部長



医学博士  
日本麻酔科学会認定指導医  
日本専門医療機構認定麻酔科専門医  
麻酔科標榜医  
日本ペインクリニック学会専門医  
日本緩和医療学会認定医  
慢性疼痛学会専門医

**氏名** 竹中 元康

**挨拶**

2022年4月よりペインクリニック科部長を拝命いたしました。  
我が国では、多くの方が何らかの痛みを日常持ちながら生活を過ごしていると言われ社会問題になっている場合もあります。痛みは、大きく急性痛と慢性痛に分けられます。急性痛は、術後痛や急性腰痛・带状疱疹・三叉神経痛などが代表的な疾患でその痛みの原因となる病態が改善すると軽減消失しますので警告の役割を有しています。一方慢性痛は長引く術後痛・神経障害性疼痛・筋骨格系疼痛・口腔顔面痛、がん性慢性疼痛など様々な疾患があり、急性痛の遷延や、痛みの増強等により身体的・精神的・社会的要因が複雑に関与することにより生活の質を低下させ社会生活に支障きたすこととなります。これらの患者さんに対してペインクリニックでは、多角的に痛みの原因を診断し正しい評価のもと薬物療法や神経ブロック療法のみならず理学療法や心理療法など多職種により様々な治療方法を行うことで痛みの軽減や生活の質を向上させることに努めます。  
また、近年わが国においても非がん性痛に対する医療用麻薬の使用が認められるようになり効果が示されています。がしかし、過剰摂取・乱用や依存などの危険性が危惧されていますので、今後医療用麻薬の適正使用についても取り組んでいきたいと考えています。

## 口腔腫瘍科部長



医学博士  
日本口腔外科学会専門医・指導医  
日本口腔科学会認定医・指導医  
日本口腔外科学会代議員

**氏名** 加藤 恵三

**専門** 口腔腫瘍

**挨拶**

2022年4月から口腔腫瘍科部長を拝命いたしました加藤恵三と申します。口腔腫瘍といってもなじみがないと思いますが、悪性疾患では口腔がんのことを指します。口腔がんは日本においては年間7,000-8,000人ぐらいの方が罹患するとされ増加傾向を示しています。すべてのがんに言えますが、早期発見・早期治療が重要ですので当科では前がん病変なども含め積極的に発見・治療をすすめてまいります。また、口腔がん治療は口腔のみにとどまらない治療が必要になることもあるため、耳鼻咽喉科、放射線科、内科などの関係各科との連携を重視して行い、さらにインプラント義歯などを応用した口腔機能の再建にも重点を置いて取り組む予定です。皆様先進的で高度な医療を提供し、一人でも多くの方の社会復帰の一助になるべく努力していく所存です。口腔疾患治療において地域はもちろんのこと、岐阜県の中心的役割を担う施設になるよう頑張ってお参りますのでよろしくお願い申し上げます。

## 肝胆膵外科部長・外科主任医長



医学博士

日本外科学会 専門医・指導医

日本消化器外科学会 専門医・指導医

消化器がん外科治療認定医

日本肝胆膵外科学会高度技能専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

CSTファシリテーター

**氏名** 小森 充嗣

**専門** 肝胆膵外科

**挨拶**

2014年4月より当院に赴任し、肝胆膵外科を中心とした消化器外科疾患の診療に携わって参りました。当科は日本肝胆膵外科学会が定める高度技能専門医制度の認定修練施設(高難度症例を年間30例以上)に認定されており、肝胆膵外科医4名(内 高度技能指導医1名、専門医1名)で多くの肝胆膵領域の良性・悪性疾患の治療を、正確かつ安全な治療をモットーに行っております。また、肝胆膵領域の疾患では適切な治療方法を決定するために詳細な術前検査は非常に重要な位置づけとなっており、消化器内科医とも連携を密にしています。「肝胆膵疾患かも」と疑われた場合は是非消化器内科にご紹介いただき、消化器内科もしくは当科での早期の適切な治療に結びつけられましたらと、考えております。これからも肝胆膵外科チームみんなで力を合わせて質の高い治療提供ができるよう頑張ってお参ります。よろしくお願いいたします。

## 看護部長



認定看護管理者

**氏名** 田口 路代

**挨拶**

2022年4月より、副院長兼看護部長を拝命いたしました。

当院では、住み慣れた地域で安心して日常生活が送れるよう、2020年7月から総合サポートセンターを開設し、予定入院患者さんの情報を入院前に把握し、問題解決に早期に着手するよう多職種と連携して実施しています。開設当初は対象診療科が2診療科でしたが、2022年7月には12診療科へと拡大し、入院・外来・地域との更なる連携強化に取り組んでいます。また、入院患者さんが在宅療養していくにあたり、現場の訪問看護師がケア時の判断に迷う場面が多いことが明らかになっていますので、当院の認定・専門看護師が訪問看護師と共にWEBを活用して在宅医療を支援していきたいと考えています。昨年度はモデル事業として参加していましたが、今年度は当院の活動として連携施設を拡大し実施していく予定です。地域包括ケアシステムのなかで、急性期病院としての看護職の役割が発揮できるよう今後も努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



循環器内科医師+検査技師



乳腺外科医師+検査技師

超音波検査室は、中央検査部の一部門として年間25,000件(2021年度)程度の超音波検査を行ってきました。2022年6月1日より以下の理念の下、今までの超音波検査室を継続する形で独立し超音波検査部が設立されました。

超音波検査部は、循環器内科、消化器内科、乳腺外科、小児循環器内科、胎児診療科の医師と日本超音波医学会認定の超音波検査士の資格を持った技師と超音波検査士を目指す技師で構成されており、心臓、腹部、乳腺、胎児、血管、甲状腺、皮膚科領域、泌尿器科領域等幅広い領域のエコー検査を合計12台の超音波機器を使用し実施しています。

また、当院では各診療科の医師と連携し、特殊検査にも力を入れています。

循環器領域では経食道心エコー図検査、負荷心エコー図検査、マイクロバブルテストの実施や経皮的僧帽弁接合不全修復システム(MitraClip)時の機器操作を行っています。大動脈弁狭窄症や僧帽弁逆流症のカテーテル治療が当院で開始されてからは、中等度以上の僧帽弁逆流と大動脈弁狭窄の症例に関しては毎日循環器の超音波医師に報告を行い、治療に向けて迅速な対応を行っています。

消化器領域では、造影エコー検査、経皮的ラジオ波焼灼療法時の機器操作を行っています。また、肝細胞癌術中エコー時に技師が立ち会っています。

各診療科の医師との定期的なカンファレンスにも参加しています。

心エコーカンファレンス、SHD(構造的疾患)カンファレンス、乳腺カンファレンス、胎児カンファレンスに参加し、診療科の医師と連携しています。

### <理 念>

1. 高度医療に対する知識・技術を有し良質な超音波医療を提供する。
2. 超音波医学の研究・教育に努め、学術レベル向上を図る。
3. 超音波機器の管理と運用の効率化を図る。



胎児診療科カンファレンス



乳腺外科カンファレンス



消化器内科 造影エコー



循環器内科 バブルテスト

今後は、臨床検査技師のみでなく診療放射線技師も一緒に超音波検査業務を行っていくことになりました。臨床検査技師の検査データを読む能力、診療放射線技師の画像の読影能力を合わせ総合的な判断能力を培っていきたいと思います。

院内に多数ある超音波機器の整備と管理についても、各診療科の医師、臨床工学技士の協力の下、一元管理を行っていきます。

各診療科の医師とコミュニケーションを密にしながら患者様に質の高いエコー検査が提供できるようにスタッフ一同頑張りますので、これからよろしくお願い致します。

**今回の記事でも取り上げた循環器内科をもっと知ってみませんか？**

**循環器内科の特設サイトが開設!** <https://special.gifu-hp.jp/>

高度急性期医療を担う当センターの循環器内科は、常に先進的医療を岐阜地域に提供するとともに、常に循環器救急患者を受け入れることが出来る体制を整えています。地域住民の皆さま、地域医療機関の皆さま、ぜひご覧いただき、私たちの診療機能をお役立てください。



## コロナ禍での退院後訪問のあり方 ～リモートでの退院後訪問を経験して～

6階西病棟 佐藤 里菜

当院では新型コロナウイルス感染症対策として、入院患者さんに面会禁止の措置をとっています。退院支援の方法は、コロナ禍前はご家族や訪問看護師等の在宅支援者が患者さんと直接会って病状や日常生活動作能力を確認する場が多く持たれていました。現在は電話や文書等での情報共有が優先され、在宅支援者を交えた退院前後カンファレンスの機会は減少しています。

今回、私は脊椎の手術を行った患者さんを受け持ちました。手術により動けないほどの痺れや疼痛は軽減しましたが、杖での2動作歩行は不安定さが残り段差では特に注意が必要でした。患者さんはリハビリ転院をするより自宅に帰りたいという希望を持ってみえましたが、敷地内の母屋に住む長男夫婦は昼間は仕事で不在のため、患者さんが離れでひとりで生活していけるのか不安がありました。入院中にご家族への指導は電話が主となり、居住環境や必要な支援も十分に確認できずにいました。そのため自宅退院に向けて患者さん・理学療法士とともに、歩行器でのトイレ歩行と排泄動作の安定を目標に決めました。介護保険の申請も行いケアマネージャーと相談の結果、退院後2週間は週に4回の訪問をしてもらうこととしました。

退院後に理学療法士と医療ソーシャルワーカーと共にリモートで退院後訪問を行い、屋内外の転倒リスクのある場所など確認しました。ご家族や訪問看護師を交えて、必要な住宅改修の話やデイサービスの利用についても検討することができました。理学療法士から患者さんに歩行状態が安定してきていることが伝えられると「外出するために頑張るね。」と前向きな言葉が聞かれとても嬉しく思いました。コロナ禍であってもリモートなど活用することで在宅での患者さんの様子がよくわかり、必要な支援を多職種でその場で検討することができました。まだコロナは終息の気配を見せていません。今後もリモートなど活用し、地域と連携していきたいと思います。



看護師・理学療法士・医療ソーシャルワーカーがリモートの画面を見ながら、患者さんの状態・居住環境などを確認して必要な支援を地域のスタッフと共に検討しています。

## ≫ 紹介状なしでの初診にかかる費用等を改定します

当センターでは、令和4年度診療報酬改定を受け、初診時に紹介状を持参されない場合にご負担いただく費用(初診時保険外併用療養費)を7,700円に、当センターでの治療が終了し他医療機関へ紹介後、他医療機関からの紹介状を持参されずに再度当センターの受診を希望される場合にご負担いただく費用(再診時保険外併用療養費)を3,300円に、今年10月からそれぞれ改定いたします。

今回の改定により連携医療機関の先生方に対して、紹介状を希望される患者さんが増えることが想定されます。このことは、日頃の健康や病状の管理はかかりつけの医療機関で対応していただき、特別な検査、治療が必要となった際は当センター等へ紹介していただくという良い連携がより必要になると考えます。当センターにおいてもこれを期に逆紹介をこれまで以上に推進してまいりますので、当センターを受診希望の患者さんへの紹介状作成についてご配慮いただきますようお願いいたします。



### 編集後記

岐阜県総合医療センター地域医療連携広報誌 第43号をお届けします。病診連携に向けて、先生方に少しでもお役に立てる紙面を目指しています。ご意見、ご要望がございましたらお寄せください。お待ちしております。  
(地域医療連携部:W)

地方独立行政法人

**岐阜県総合医療センター**

〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号

地域医療連携センター直通 TEL(058)249-0017

FAX(058)248-9334

発行/岐阜県総合医療センター 地域医療連携部